

巻頭によせて

校長 北 村 聡

Kitamura Satoshi



福井県小浜市の小学校では、毎年「つな女」の顕彰祭が行われています。「おつな」という女性の善行をたたえ、冥福を祈る行事です。

おつなは家が貧しく、15歳の時に子守奉公に出ました。ある日主人の子どもをおんぶして遊んでいたところ、凶暴な野良犬が現れ、彼女に噛みつきました。逃げようとしたのですが逃げ切れず。おつなは子どもを抱きかかえて地面に突っ伏しました。覆い被さって子どもを守ったのです。犬は執拗に噛みつきましたが、おつなは身動き一つしませんでした。やがて騒ぎに気付いた大人達が駆けつけて犬を追い払いましたが、おつなは全身に多くの傷を負っていました。主人の家に帰されましたが、その時の傷がもとで間もなくなくなりました。子どもは無傷で無事でした。

このお話に限らず。我が国には、踏切に迷い込んだ幼女を救おうとして犠牲になった鉄道員のお話など、自分より弱い人を守ろうとして身をなげうった物語が多く残されています。おつなのような状況になった時、自分なら果たしてそれが実行できたであろうかとは、誰もが不安に思う所ですが、同様の話を耳にする度、人間には人の役に立ちたいという、困っている人を助けたいという「善心」が生まれながらに備わっていると感じざるを得ません。咄嗟の場面で「善心」が噴出するのです。

いじめや家庭内暴力など、人間の尊厳を毀損するような出来事が後を絶たない、神経衰弱の世相ではありますが、我々はお互いに、自らには正しい心を持って誠意ある行動をとることの出来る「善なるもの、良心」が備わっていることを自覚しながら、その時その時に相応しい態度で日々を送ることが出来ればと感じます。